

令和8年熊本地震（7月28日 M7.1）のすべり分布モデル(暫定)

2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震について、GNSS解析（電子基準点及び民間等電子基準点）およびSAR解析（SAR干渉解析及びピクセルオフセット法）で得られた地殻変動をもとに、矩形断層の推定結果を参考に2枚の断層を仮定して、小断層に分割したうえで地震時すべり分布を決定した。

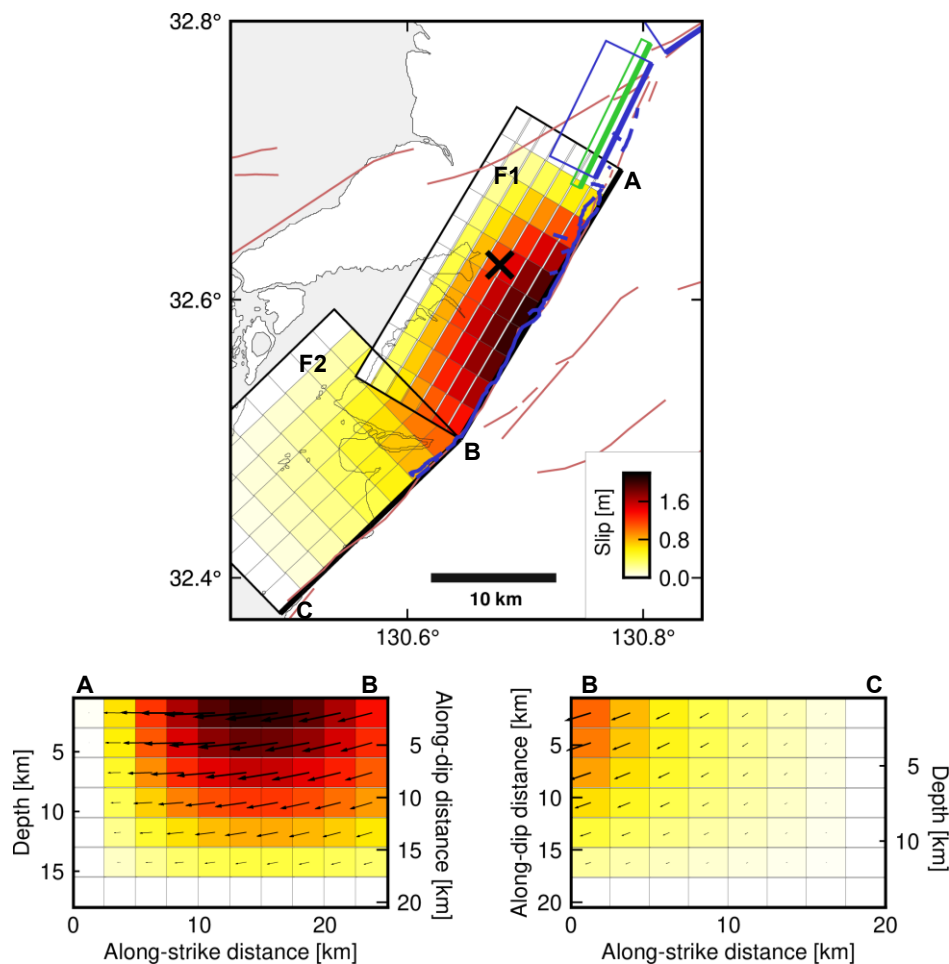


図1 推定された地震時すべり分布モデル。緑及び青矩形は、平成28年（2016年）熊本地震（4月14日 M6.5及び4月16日 M7.3）の震源断層モデル（矢来・他 2016）を示す。太線は断層上端を示す。×印は今回の地震の震央。赤線は主要活断層帯を示す（地震調査研究推進本部）。青線はSAR解析結果から判読した変位不連続のトレース（暫定）。

表1 すべり分布の推定に使用した震源断層モデルパラメータ。

断層	緯度[度]	経度[度]	上端深さ[km]	長さ[km]	幅[km]	走向[度]	傾斜[度]	Mw
F1	32.69	130.78	0.5	25	20	210	61	6.74
F2	32.64	130.50	0.5	20	20	225	44	6.33

- 最大すべり量は約2.0mである。
- すべりの平滑化強度は交差検証法により決定した。
- Mwの計算においては、剛性率40GPaを仮定。2枚の断層の合計のMw6.80である。